

【お詫びと訂正】

2016 年に発行した日本血液浄化技術学会雑誌の第 24 巻において、2 点の指摘を受けました。ここに謹んでお詫び申し上げますと共に、下記のように訂正いたします。

- (1) 第 24 巻 2 号 182～189 ページ 柴田 昌典氏にご執筆頂きました原著論文『透析治療による血糖値の低下について 第三報：血中コレステロール、赤血球容積との関係について』において、本文の脱落がありました。ここに謹んでお詫び申し上げますと共に、下記のように訂正致します。

正誤表

訂正箇所	誤	正
24 巻 183 ページ(対象患者の項の前)	【緒言】(脱落)	<p>【緒言】</p> <p>一般に透析治療に使用される透析液には 100～150mg/dL の濃度のブドウ糖が含有されており、透析中の患者の血糖値は基本的には透析液中と血清中のブドウ糖濃度の濃度勾配によって決まり、おおむね生理的な濃度に保たれていると受け取られているきらいがある。しかし、事実はこのような理解が誤りであることを明示しており、すでに半世紀以前からときには透析中に患者の血糖値が意識レベルの低下を生じるまでに低下する可能性があることが知られている<sup>1-8)</sup>。透析治療の結果、代謝性アシドーシスが補正され、赤血球細胞内の pH の上昇に伴い、解糖系が賦活化され細胞内のブドウ糖に不足が生じ、それを代償するために血清中から赤血球内へのブドウ糖の移動が生じるためというメカニズムが示されている<sup>2,9,10)</sup>。しかし、このような現象がどのような条件下でどのように生じるかについては不明な点が多い。我々はこれまでに血清アルブミンと中性脂肪、栄養指標の GNRI と体脂肪率の低い患者ほど透析治療中の血糖値の低下が著しく、その間に有意の関係が存在することを報告してきたが<sup>11,12)</sup>、今回さらに血清コレステロール値について検討したところ興味深い知見を得ることができた。また血糖値の低下と赤血球容積(MCV)との間にも一定の相関が認められた。透析中の血糖値の低下と肝の蛋白、脂質合成機能との関連について述べる。</p>

(2) 第 24 卷 2 号 357～359 ページ 井角 勇貴氏にご執筆頂きました発表論文『シングルニードル法による血球成分除去療法の安全性』において、本文の脱落がありました。ここに謹んでお詫び申し上げますと共に、下記のように訂正致します。

正誤表

訂正箇所	誤	正
24 卷 359 ページ	表 1 留置針	表 1 平均血流量及びトラブル件数